

平成29年5月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成29年5月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

5月1日に、八戸市は市制施行88周年を迎えました。「八」は末広がり縁起が良いとされる数字であり、また、当市と深い関わりがある数字であることから、「8」が並ぶ年であることを祝い、そして、当市の更なる発展を目指し、88周年を記念する各種事業を実施することとしております。

八戸ならではの記念の年に、八戸のまちの魅力を楽しんでいただき、市全体で盛り上がるよう、皆様のご協力よろしくお願い申し上げます。

※記念事業など、詳細はこちらをご覧ください（市ホームページ）

<http://www.city.hachinohe.aomori.jp/index.cfm/8,105987,15,html>

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-2 全国都市会館 5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸 5月号 レポート

平成29年4月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	八戸市制88周年 市庁前などでイベント多彩
(2)	八戸市美術館 最後の作品展が終わり、ひとまず閉館
(3)	八戸市が「移住コーディネーター」配置
(4)	にぎわい拠点施設「マチニワ」 5月上旬に本格着手
(5)	八戸市「スポーツ大使」制度を創設
(6)	岸田外相 被災の厳島神社を視察

【産業】

記事	概要
(7)	市内のホテルで宴会などでの食べ残しを減らす「3010運動」スタート
(8)	南部菱刺とコムサイズムがコラボ 春夏衣類を全国で販売
(9)	「べんとうグランプリ」吉田屋（八戸）が3年連続金賞
(10)	「八戸ワインフェス」開催へ ～各国のワイン楽しんで～
(11)	八戸-苫小牧の新造フェリー船名「シルバーティアラ」に決定
(12)	「八戸前沖ぶぐ福まつり」開催 ～旬のフグを地元で味わって～
(13)	青森県 2016年度求人倍率 初の1倍超え

【地域】

記事	概要
(14)	繁殖地・蕪島にウミネコの群れ飛来
(15)	鮫神楽 名作「安宅関勸進帳」を20年ぶりに再演
(16)	八戸港内のウミネコ遊覧船「はやぶさⅡ」運航スタート
(17)	八戸学院大に新学部「地域経営学部」開設へ
(18)	ジュニア農芸化学会で銅賞受賞 ～ナガイモに美肌効果、虫歯抗菌作用～
(19)	八工大・柴田准教授 電子情報通信学会教育功労賞受賞

【文化・スポーツ】

記事	概要
(20)	八戸工卒の3人 初出場で全国8強入り（3人制バスケットボール）
(21)	元宝塚歌劇団の北翔海莉さん 6月に八戸公演開催
(22)	ナベサダ出演「南郷サマージャズフェスティバル2017」 7月29日開演

記事	概要
(1)	<p>八戸市制88周年 市庁前などでイベント多彩</p> <p>八戸市は5月1日、市庁前市民広場などで市制施行88周年記念行事を開く。航空自衛隊の曲技飛行部隊「ブルーインパルス」の展示飛行を行うほか、自衛隊音楽隊コンサートを開くなど、多彩なイベントを展開する。当日は午後1時半から、市民広場でオープニングセレモニーを行い、同時時間帯に会场上空で、ブルーインパルスの展示飛行を実施する予定。陸上自衛隊による八戸陣太鼓の演奏なども計画している。</p>
(2)	<p>八戸市美術館 最後の作品展が終わり、ひとまず閉館</p> <p>八戸市番町の市美術館が4月2日、最後の作品展を終え閉館した。同市の八戸臨泉会書展と同会学生書道展が最後の作品展となり、出品した同市の榊眞紀子さんは「今の美術館と比べ、ゆっくり鑑賞できる環境が整うはず。新美術館ができるのは楽しみ」と期待を寄せた。3日からは新美術館建設推進室が閉館後の市美術館で業務を継続する。市は新美術館について、2020年後半のオープンを目指して基本設計などを順次進める。</p>
(3)	<p>八戸市が「移住コーディネーター」配置</p> <p>八戸市は、八戸圏域連携中枢都市圏を構成する同市など8市町村への移住者の受け入れを促進するため、新たに「移住コーディネーター」を配置する。同市がNPO法人「プラットフォームあおもり」（青森市）に業務を委託。雇用支援や新規事業の開発などの実務経験がある職員を専任コーディネーターとして月、水、金曜の週3日、広報統計課に配置する。圏域の人口維持や活性化に向けて本年度スタートした同都市圏事業の一環。</p>
(4)	<p>にぎわい拠点施設「マチニワ」 5月上旬に本格着手</p> <p>八戸市が中心街の三日町に計画している、にぎわい拠点施設「マチニワ」の整備工事が4月19日に始まり、建設予定地で関係者らが出席して安全祈願祭が行われた。街中の「庭」をイメージしたマチニワの整備は、地区全体の魅力や回遊性の向上を狙う三日町・六日町地区再開発の一環。「緑・水・光」など、街中に不足している自然の要素を取り入れた全天候型多目的広場として整備する。工事は5月の連休明けに本格化し、2018年夏までにオープンする予定。</p>
(5)	<p>八戸市「スポーツ大使」制度を創設</p> <p>八戸市は、スポーツ分野で活躍した地元関係の選手に市の魅力をPRしてもらう「市スポーツ大使制度」を創設した。任命基準は、市出身または市にゆかりがあり、国際大会や全国大会で活躍した選手やスポーツ団体。大使は各種イベントなどで市のイメージアップ役を担うほか、講演や技術指導などを行う。任期は2年。現在、10個人、3団体の地元のプロスポーツチームと交渉を進めており、大使任命が決まれば、市制88周年事業の一環として、記念試合などを予定しているという。</p>
(6)	<p>岸田外相 被災の巖島神社を視察</p> <p>地方の魅力を世界に発信し、外国人観光客の誘致を目指す「地方を世界へ」プロジェクトの一環で、青森県を訪れた岸田文雄外相は4月23日、八戸市大久喜漁港の巖島神社などを視察した。岸田外相は、鳥居が東日本大震災の津波で流出した後、米国に一部分が漂着し返還された経緯について「政府間だけでなく、国民レベルで絆があるということを示す重要な鳥居。たくさんの人の気持ちの重みを感じた」と強調。「これからも（鳥居を）守り、語り継いでいってください」と呼び掛けた。</p>

【産業】

記事	概要
(7)	<p>市内のホテルで宴会などでの食べ残しを減らす「3010運動」スタート</p> <p>八戸市内の6つのホテルや結婚式場が4月から、宴会などでの食品の食べ残しを減らす「3010運動」を始めた。3010運動は、宴会の始めの30分間と終了前の10分間、席を立たずに食事を楽しむことで食品ロスを削減する取り組みで、全国的な広がりをみせる。市は業界の団結した動きに合わせてPR用のポスター200枚、チラシ1万枚を作り各事業者配布して支援。今後は飲食店など他の業界にも広げるため協力店の登録制度の導入なども検討する方針である。</p>
(8)	<p>南部菱刺とコムサイズムがコラボ 春夏衣類を全国で販売</p> <p>アパレルメーカーのファイブフォックス（東京都）が展開する「コムサイズム」が、青森県南地方に伝わる伝統技法「南部菱刺」を取り入れた春夏衣類を販売している。日本文化や伝統美をコンセプトとするファイブフォックスが、古くから伝わる素朴で味わいのある刺し子をモダンな洋服で表現したいと、南部菱刺研究会の山田友子代表（八戸市）に模様の監修を依頼した。商品作りでは、手刺しゆいの細やかさや繊細さをより近い形で表現できる機械を使用。大人用には梅の花や鱗紋、こども用には矢羽根などを施した。全国約280のコムサイズム全店で取り扱っている。</p>
(9)	<p>「べんとうグランプリ」吉田屋（八戸）が3年連続金賞</p> <p>国内最大級の食品コンテスト「ファベックス惣菜・べんとうグランプリ2017」のプレミア部門で、八戸市の吉田屋（吉田広城社長）が出品した「北海道肉敷きローストビーフ弁当」が最高賞の金賞に輝いた。同社の金賞受賞は3年連続。吉田社長は「今後は北海道と青森県をPRし、懸け橋にもなるような弁当を作りたい」と話している。弁当は、北海道新幹線新函館北斗駅内の「41°（よんいち）ガーデン」などで販売している。</p>
(10)	<p>「八戸ワインフェス」開催へ ～各国のワイン楽しんで～</p> <p>世界各国のワインが楽しめる「八戸ワインフェス」が5月28日、八戸市の「はっち」で開かれる。今年で4回目。南郷地区で栽培したブドウを使ったワイン醸造が市内のワイナリーで始まる記念の年と位置付け、ワインにまつわる多彩なイベントを企画している。300種類を用意する「有料テイasting」は先着350人の前売りチケット制で、料金はオリジナルグラスと1フード付きで4500円。チケットは4月15日から、はっちのカネイリミュージアムショップで販売する。前売りチケットがなくても、食事と一部のグラスワインは楽しめる。イベントは正午～午後7時。</p>
(11)	<p>八戸ー苫小牧の新造フェリー船名「シルバーティアラ」に決定</p> <p>八戸ー苫小牧間の定期航路で「シルバーフェリー」を運航している川崎近海汽船は、2018年4月をめどに同航路に投入する新造フェリーについて、船名が「シルバーティアラ」に決まったと発表した。1998年に就航した「シルバークイーン」の後継船となる。旅客定員はクイーンより少ない494人だが、車両積載能力を増強する。また、コンセプトとして快適性やプライバシーを重視し、シンプルで乗客が利用しやすい環境にする。</p>

(12)	<p>「八戸前沖ふぐ福まつり」開催 ～旬のフグを地元で味わって～</p> <p>三陸沖で取れた新鮮な天然トラフグのコース料理を手軽な値段で提供する「八戸前沖ふぐ福まつり」が5月10日から6月17日まで八戸、青森両市内の計12店舗で開催される。両市内の料理人らでつくる「八戸日本料理業・芽生(めばえ)会」が地元産フグの消費拡大に向けて企画し、今年で4回目。首都圏など県外からの観光客も目立ち、新たな観光資源として認知されてきたという。各店舗では5千円、7千円、1万円(いずれも税別)のコース料理のほか、ランチを含むオリジナルコースをそれぞれ用意する。主催者は「食のイベントとして徐々に定着してきた。旬のフグを地元で味わってほしい」と力を込める。</p>
(13)	<p>青森県 2016年度求人倍率 初の1倍超え</p> <p>青森県の2016年度の有効求人倍率(原数値)は前年度平均を0.18ポイント上回る1.13倍で、統計が残る1963年以降、過去最高だった。年度平均で1倍を超えたのは初めて。青森労働局は「国内景気の緩やかな回復基調を背景に、雇用情勢が堅調に推移している」と分析する。ただ、介護や建設業など一部職種で人手不足感が拭えず、非正規雇用から正規雇用への積極転換など官民挙げた取り組みが急務となっている。</p>

【地域】

記事	概要
(14)	<p>繁殖地・蕪島にウミネコの群れ飛来</p> <p>八戸市鮫町の蕪島に、繁殖のためウミネコの群れが飛来し、「ミー、ミー」と元気な鳴き声を響かせている。島頂上部にあるウミネコ繁殖地保護監視所によると、今年は例年通り2月ごろから集まり始め、現在はおよそ3万羽。ほとんどが既につがいを組んでおり、間もなく巣作りに入り、4月中旬ごろから産卵が始まるという。青空が広がった4日は、陽光を浴びて羽を休めたり、巣作りの場所を巡って盛んに縄張り争いをする姿が見られた。観光客は、島の斜面や、蕪島前の土手で休むウミネコを間近に見て楽しんでいた。</p>
(15)	<p>鮫神楽 名作「安宅関勸進帳」を20年ぶりに再演</p> <p>八戸の鮫地区で200年以上受け継がれている「鮫神楽」の発表会が4月9日、同市の鮫生活館で開かれた。鮫神楽連中への新メンバー加入や、経験を積んだ若い担い手が育ってきたことで、長年、人手不足により上演できなかった演目「安宅関(あたかのせき)勸進帳」を約20年ぶりに再演した。舞台に立つ弁慶役の松井一堯さん(22)、富樫役の畑中大河さん(18)ら若手によるりしい演舞に、観客はくぎ付け。総勢24人が一体となった舞台に、大きな拍手が送られていた。</p>
(16)	<p>八戸港内のウミネコ遊覧船「はやぶさⅡ」運航スタート</p> <p>八戸港内を巡る観光遊覧船「はやぶさⅡ」を運航する八戸通船は4月14日、今年の運航開始の前に、園児らを招いて体験試乗会を開いた。約20人の搭乗客は、船を取り囲むように乱舞するウミネコの歓迎を受けながら、約40分の船旅を楽しんだ。運航は4月15日から10月まで。月～土曜日が1日3便、日曜、祝日と8月11～16日は1日6便運航する。料金は中学生以上1400円、小学生以下700円。</p>
(17)	<p>八戸学院大に新学部「地域経営学部」開設へ</p> <p>八戸学院大は、地元産業に貢献する人材育成のため、新学部「地域経営学部」の2018年4月開設を目指し手続きを進めている。同大によると、地域経営学部は、これまでビジネス学部で学んでいた内容に加え、水産や農業資源をいかしたビジネスプランの構築など新たなカリキュラムを導入する予定だという。4月中に文部科学省へ申請書を提出し、早ければ月内に開設が正式決定する。</p>

(18)	<p>ジュニア農芸化学会で銅賞受賞 ～ナガイモに美肌効果、虫歯抗菌作用～</p> <p>八戸高専の女子学生3人の研究グループが、3月に行われた「ジュニア農芸化学会」で銅賞を受賞した。ナガイモの成分解析などを行い、美肌効果や虫歯のもととなるミュータンス菌への抗菌作用があることなどを発見。3人は「研究を続け、ナガイモのさまざまな利用方法を見つけていきたい」と今後の研究にも意気込みを示している。</p>
(19)	<p>八工大・柴田准教授 電子情報通信学会教育功労賞受賞</p> <p>携帯電話や電子レンジに用いる周波数の高い電波「マイクロ波」を研究する大学生と、産業界のつながり強化に貢献したとして、八戸工業大工学部電気電子システム学科准教授の柴田幸司さんが、電子情報通信学会（東京都）の教育功労賞に選ばれた。電気、情報、通信に関する日本最大規模の学会の賞に柴田さんは「学生のためという思いだけで活動してきた。地道な努力が認められてうれしい。今後は青森県の産業発展に貢献するために、地域と連携した活動をさらに進めていきたい」と意欲を語る。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(20)	<p>八戸工卒の3人 初出場で全国8強入り (3人制バスケットボール)</p> <p>東京都で3月24～26日に開かれた、3人制バスケットボールの全国大会「第3回3×3 (スリー・バイ・スリー) 日本選手権大会」の18歳以下男子で、今春に青森県立八戸工業高を卒業した元バスケットボール部の3人のチームがベスト8入りを果たした。チーム名は、3人の出身地である横浜町と八戸市を組み合わせ「YOKONOHE」と命名。3×3は、国際バスケットボール連盟が正式競技として推進する新しい形のバスケットボール。1試合は10分間で、21点を先取した時点で終了。攻撃側は、12秒以内にシュートを打たなければならず、展開が速いのが特徴。3人にとって初となる大舞台での好成績を喜んでいる。</p>
(21)	<p>元宝塚歌劇団の北翔海莉さん 6月に八戸公演開催</p> <p>元宝塚歌劇団星組トップスターの北翔海莉さんが6月に八戸市で公演する。北翔さんは八戸市生まれで、千葉県松戸市出身。星組トップスターとして活躍し、昨年11月の退団後も精力的に活動している。八戸での公演は5月に始まる全国ツアーの一環。北翔さんは「宝塚歌劇団卒業後の新しい自分を見てもらいたい」と話している。公演は6月16日、八戸市公会堂で午後6時半開演。</p>
(22)	<p>ナベサダ出演「南郷サマージャズフェスティバル2017」 7月29日開演</p> <p>「第28回南郷サマージャズフェスティバル2017」が7月29日に八戸市南郷の「カッコーの森エコーランド」野外ステージで開催される。日本を代表するサックス奏者・渡辺貞夫さんら4組のバンドが出演し、南郷の夏を熱く盛り上げる。「ジャズの館南郷」で25日に開いた記者発表では、八戸出身のトランペッターの類家心平さんが「往年のジャズファンはもちろんのこと、感受性豊かな若い世代にもぜひ足を運んでほしい」と呼び掛けた。フェスは正午開場、午後1時開演。前売り券は5月12日に発売。一般5千円、中高生2千円、小学生以下無料（当日券は各千円増し）。</p>